

## 第1回茨城空港のあり方検討会 議事録

1. 開催日時 : 2024年8月1日(木) 13:00~15:00

2. 開催場所 : 茨城県庁901会議室 及び ウェブ

3. 出席者 : 資料2(出席者名簿)参照

4. 議事概要 :

- 茨城空港において、令和5年10月末から、ビジネスジェットを含む民航機の弾力的な受入れが開始されたことを、茨城県のさらなる発展につなげるため、茨城空港の将来像を検討する目的で、有識者、県内団体や空港関係者により構成する検討会が開かれた。
- 検討会は年度内に全4回の開催を予定しており、今回は第1回目として、茨城空港の現状を共有した上で、茨城空港が今後果たすべき役割について、出席者による意見交換が行われた。
- 主な意見については、以下のとおり。

- ・茨城空港は、地域経済において重要な役割を担っており、空港の運用弾力化は地域の活性化の面で重要なことである。
- ・茨城県の産業と空港との連携を強化することで、雇用創出や輸出促進など、地域全体の経済活性化を図ることができる。
- ・茨城空港は、観光振興の面でも重要な役割を果たしており、インバウンドの増加を見込む中、国際線の就航拡大により、文化やビジネスの交流が活発化し、地域の国際化が進むことが期待できる。
- ・外国人から見ると、羽田・成田・茨城は近くに固まってあるイメージ。各空港のビジョンがあった上で、首都圏の3空港で役割分担やインバウンドの受入れ対策など、いろいろと連携できると良いと思う。
- ・教育旅行・修学旅行の分野は非常に大きいマーケットがあり、国内の修学旅行の需要も高まっている。
- ・ビジネスジェットは、ビジネスだけでなく、高付加価値な観光商品としても、茨城空港の特徴的なものになる可能性がある。
- ・富裕層向けの2次交通として、ヘリや有人ドローンなどの活用も、今後十分考えられる。
- ・国際線と国内線の橋渡しができるの良いのではないか。
- ・貨物や物流の拠点という柱もあって良いのではないか。国際に限らず、国内貨物もチャンスはある。
- ・茨城空港は周辺県の災害対応の拠点空港としての役割も担っており、羽田空港の滑走路が使用不能になった際に、代替空港として機能した実績がある。
- ・百里飛行場は、首都圏で唯一の戦闘航空団が所在する場所であるとともに、大規模災害時には、自衛隊による空輸や救難の拠点となる場所。
- ・県外からのアクセス利便性の向上を図ることで、さらに利用率が高まるのでは。各地への交通ネットワークを拡大してほしい。

- ・住民の方々が利用したいと思える空港になるよう、路線便数を増やし、インフラを含めて拡大してほしい。
- ・各施設の需要に合わせた拡張の検討が必要。
- ・(空港立地自治体である) 小美玉市の新まちづくり構想により、百里基地と茨城空港を活用して、にぎわいや交流の創出を図っていく。
- ・空港だけにかかわらず、空港を取り巻くいろいろなインフラや情勢、全てをビジョンの中に示していくことが大事である。
- ・将来ビジョンの「将来」をどこに置くのかは明確にすべき。具体的には2040年～2050年あたり、20年後・30年後の社会情勢を踏まえた上で、今と全く違う状況を想定しながら議論を進めていくべき。
- ・海外ではショッピングセンターが併設されている空港もある。まちづくり全体の中で、空港の位置づけを考えることが必要。
- ・関東圏3つ目の空港として、羽田空港・成田空港における2040年～2050年の将来のビジョンを見ながら、茨城空港の「将来ビジョン(案)」を考えていくことが必要。